

女子水球競技の発展へ向けて

梅田 優子 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 渋谷 俊浩

キーワード：女子水球，競技力の推移，競技の発展

1. 緒言

水球とはイギリス発祥のスポーツで、コンタクトの激しさから水中の格闘技とも呼ばれる。

日本女子水球チームは2014年仁川アジア競技大会において初出場ながら銀メダルを獲得し、2015年世界水泳に13年ぶりに出場するなど競技力は年々向上している。

このように、代表チームの競技力は向上する一方、国内での普及率が非常に低い、競技人口が少ない、競技引退（トランジション）、施設の不足、指導者不足などの課題・問題が存在している。（森，2013）

そこで本研究では、ユニバーシアード競技大会・世界水泳に出場した水球女子選手18名を対象としたアンケート調査及びインタビュー調査を行い、競技力の推移とその背景を調査・分析することによって日本女子水球の発展に寄与することを目的とする。

2. 研究方法

- ①文献調査：水球競技に関する文献を調査した。
- ②2015年夏季ユニバーシアード・世界水泳に出場した日本代表女子水球選手18名を対象に、アンケート・インタビュー調査を行った。

3. 結果と考察

代表選手でありながら競技を続ける意思がないと答えたのは18人中11人で、半数以上が続ける意思がないことがわかった(図1)。その理由として、仕事との両立が厳しいと答えたのが6人、次にその他が4人となった。

つまり、大学生・社会人ともに仕事や学業との両立が難しいと考えていること、実際に水球をする時間が確保できないことが大きな問題であることがわかった。

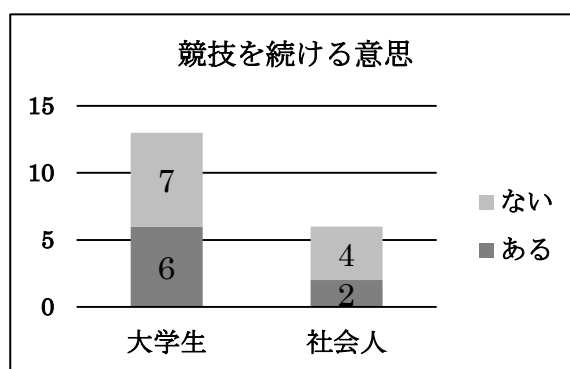


図1 競技継続の意思

4. 要約

今後、さらに日本女子水球が発展していくためには、現役のトップ水球選手や競技を引退後の選手が、それぞれの立場（指導等）で水球に関わっていくことが望まれる。そうすることによって競技人口の増加、それに伴う国内の競技レベルの向上、ひいては日本代表の国際競技力向上にも繋がることが示唆された。

引用・参考文献

- 原朗，榎本至（2005）水球競技の長期一貫指導型競技者育成プログラム．東京情報大学研究論集，Vol.9-1：pp.21-33.
- 森翼（2013）女子水球選手の競技環境と競技継続の関係性．2013年度びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究抄録集，pp.217.